





挨 拶

瀬賀 弘行

同窓会長 (27回生)

新潟県立村上高等学校

申し上げます 命しました。もとより未熟な者ですが、皆様 昨年10月、 同窓の皆様には益々ご健勝のこととお喜び 村上高等学校の同窓会長を拝

れらの名文が、ひびかないわけがありません。

| 文一文に哲学がありました。 先生の講義が

水を打ったように静

なども、英訳で登場しました。若い感性にこ

トルストイやゲーテ、ジッド、

モーパッサン

クスピア、モーム、ラッセル、ヘミングウェイ。 出典を明らかになさいました。聖書、シェイ 入っていたわけです。先生は、

その都度その

ら引かれた原文が、そっくり先生の頭の中に

すべて出典がありました。つまり古典か

りませんでした。それなのに、

それらの文に

したが、その時、教科書もノートも御覧にな

追加して板書なさることが、

しばしばありま

かになりました。 始まると、2年1組は、

あの教養と気品とが、

なつかしく思われま

想像を探す。 な人の中に、 う。自分はどんな大人になりたいのか。身近 も苦悩に満ちている時期と言っていいでしょ 生で一番美しい時かもしれませんが、心は最 想を見出すことのできた者は幸せです。 高校時代は青春まっただ中。身体こそ人 私が村上高等学校に入学したのは1972 あるいは書物や映像のなかに理 そんな時期に教師の中に人の理

教鞭をおとりになったので、先生の薫陶を受 2年生に進級した年に47歳で村上高校に赴 学ばれたのち教師になり、1973年、 多かったはずです。 く素敵な先生方がいらっしゃいました。ここ で生涯の師を見つけることのできた同級生は 任なさいました。 66歳の定年まで村上高校で 先生は旧制京都帝国大学文学部英文科で 私の場合は、本間 桂 先生が、その人です。 (昭和47年) 4月。 高校には、 きら星の如 私が

すが、その授業は圧巻でした。教科書に載っ

私は先生に英文法を教えていただいたので

ないでしょうか。

ている基本例文に対し、同じ用例の他の文を

新 月 宗 立 村 上 高 等 学 校 同 窓 会 TEL (0254) 53-2779 FAX(0254) 53-2779 ホームページ http://www.murakou.com/

69

編集·発行 新潟県村上市飯野三丁目 16番4号 奨学会館内 新潟県立

号

第

印 刷 印刷株式

村上高校は、 新たなステージ



新潟県立村上高等学校 学校長 関矢 和彦

努力する所存であります。 迎え、これからの新たな時代を生き抜くた 命と責任の重さに、身を引き締め直して、 くましい村高生を育成するという、 を賜り、心から感謝申し上げます。 日頃から本校への多大なる御支援、 めでとうございます。同窓の皆様方には、 私も伝統校村上高校へ赴任して四年目を 「同窓の訪れ」第六九号の発行、 その使 誠にお 御協力

十二学級、 令和元年になり、 生徒数四百七十四名の規模にな 各学年四学級、 全校

> ず劣らず、村上高校の品格と伝統を引き継 いでくれると確信しています。 大変元気がよく礼儀正しく、上級生に負け りました。今年度の入学生百六十五名は

これからの混沌とした社会を生きる上での 指針になるのだと思います。 た村上高校の伝統の力が、村高生にとって、 いってもらいたいと考えています。こうし の業績を目標に、自分の進路を切り開いて から、機会ある毎にその活躍の様子につい 努力を続けた結果です。また、同窓の皆様 新潟大学へ10名合格しましたが、これも生 す。今春の卒業生の進路実績では、 コンセプトの下、着実に成果が現れていま 発展のために貢献する人間を育てるという ①②③」を実践し、郷土村上を愛し、 高校三年間を通して、村高ゼミ「ミラクル ヤ)を数多く育成したいと頑張っています。 バルな視点で地域貢献できる人材(イヨボ 創る「村高イヨボヤプラン」により、グロー てお話をお聞かせいただくことがあります さて、現在本校では、村上の未来を共に 生徒には、そうした素晴らしい先輩方 堅忍不抜の精神で最後まで諦めずに 現役で 、その

な挑戦を続ける覚悟です。 変化に順応しつつ、伝統を守りながら新た 徒の制服をリニューアルするなど、 たなセカンドステージを迎えます。 百二十周年を一つの節目として、本校は新 を進めてまいります。そして、 と、急成長するアジアに出かけて国際交流 はシンガポール、来年は、香港・マカオ 変更し、2度台湾を訪問しました。今年 成するため、二年次の修学旅行先を海外に 一方、グローバル社会で生き抜く力を育 来年の創立 女子生

輩たちに熱い声援をお願いいたします。 是非御覧いただき、未来へ向けて飛躍する後 にちは村上高校です!」で紹介しています。 日々の活動の様子を、



尾 形

(30 修 回生)

同窓会の幹事を終えて

よアトラクションの時間となり、 が出来ました。 り受付もスムーズにでき、会計も一 日までに幾度となく練習を重ねました。 たが、今までに前例のない催しという事 残る二十名くらいで前年度の同窓会に参 クラホマミキサー」をやる事に決定。 生以降やったことのないであろう、 でダンス、そして皆さんがおそらくは学 クションについては様々な企画が出まし いざ練習をしてみると還暦を目前にし 音楽に体についていかない状態で、 汐美荘さんで行われました。 成三十年の同窓会が十 次年度に向けてのモチベーション 、それぞれにエスコートをし、ションの時間となり、我々た。順調に会が進み、いよい 全員が懇親会に参加する事本ーズにでき、会計も一発 メインとなるアトラ 年明けから打ち合 当

思います。私は今年も参加する予定です。によって参加率の向上につながるものと でした。 番幹事が来ると言う意識付けをすること 個人的な意見として、 者がお手伝いをしておりましたが、私の ていただきたいと考えます。 今回、 やはり若い方の参加者が少ない状況 以前はサブ幹事として十年下 当番幹事をさせて頂 たます。十年後に当その制度を復活し 0)

アンコー

令和元年度

つかしい顔の再会に旧交を温めましょう

楽しめました。

と盛り上が

り

初めてでもとても

露天風呂 大総兹



TEL 0254-53-2131

午後3時30分~

役員会 午後4時~

総会

会 午後4時40分~

◆内 容 '平成30年度 事業・会計報告'

、令和元年度 事業・会計審議 懇親会

会 午後5時30分~

恩師•

240名以上の卒業生が集

とても楽しかっ

後輩と楽しく語らい、

お

会 費 5,000円

> ほどでした。 酒を酌み交わし、

「なんだ君も村高だった

時がたつのを忘れる

※バスは懇親会終了後村上駅まで運行します

ために昨年初めて出席し、

その

の盛況ぶ 今年

いに近い私達です。

したことが 幹事

達



校内幹事

心からお待ちしています。

理

事

という節目に幹事をさせていただくこ める同窓会懇親会にしたいと企 とか初めての は有難いことであるとともに、 幹事初心者の 多くの皆さんからご出席をいただけ 方も、 かりです。 31 回生です。 つもの方も それでも 令 和 画

副会長 長

長渡河齋八田鈴岡伊大飯石本増山澤小渡松大平丹石奥圓八小木佐永矢関尾小遠瀬 谷 川 辺 面 藤 木 中 木 田 藤 滝 沼 栗 間 井 本 渡 林 辺 本 滝 山 川村山後川瀬藤田部矢崎田山賀 正 康 保 和 秀 弘 宏 智 恵 之 子 史 昇 男 明 信 清 平 美 滋 美和子 可澄善圭直文房 政常和克兼栄弘 子 子枝広子子堯子幸勉 子 義男彦 20 28 27 回回回 生生生

 (25 25 26 回回回回生生生生)

 20 26 回 生 (27回生) 26 36 回生 25 37 25 回回回 生生生

支部連絡先

◆関東支部長

事務局長

山本 宏平 TEL043-211-6031

◆関西支部長

増井 清 TEL0721-25-8448

◆新潟支部長

和男 TEL025-233-7518 ▶新発田支部長

大滝 昇 TEL0254-22-2833

▶関川支部長

伊藤 保史 TEL0254-64-1010

◆仙台支部長

本間 弘信 TEL022-277-7654 ◆群馬支部長

石栗 秀明 TEL027-327-7104

中京支部事務局

岡田 康子 TEL0565-42-4220

◆本部事務局 事務局長 長谷川修一 TEL·FAX 0254-53-2779 Email murakami-dousoukai@mail.iwafune.ne.jp

初めての方にも、 つもの方にも

役

(31 回生)

覧ください。

買息支部

安夫(30回生

ら同窓生が集まります。 良く池袋からも比較的接続は簡単で関東各地か ており、大ターミナル新宿や東京駅への連絡も 館で開催されました。近年四ツ谷にて開催され 関東支部総会と懇親会が東京四ツ谷の主婦会

年は32回生が当番ですが、なかなか参加者の確 きました。 りながら無事総会懇親会を執行することが出来 保が厳しく襷が途切れるかと心配しましたが、 役割をこなす人数の集まりが悪い状況です。今 かと懸念しましたがほぼ予定者全員にご来場頂 ました。想定外の悪天候で参加者の出足も鈍る 4名の32回生が参集し事務局や諸先輩の手を借 こ数年若手同窓生の出席数が増えず当番幹事の から後輩へと順に企画が引き継がれますが、こ 毎年の総会懇親会は駅伝の襷を繋ぐべく先輩

村上の銘酒による乾杯の後は懇親会です。恒例 の福引、校歌斉唱ではプロ歌手の32回生大滝さ 泉さんの歌唱 ん、40回生和 となり、無事 ムページをご ました。スナッ 全てを終了し 奏での大合唱 指導後に無伴 ブは支部ホー

関 画支部

英征 (14回生)

その後は出席者各自からの近況報告に続 中では、加藤課長の御協力により提供頂 早速開催された日本選手権での平野歩夢 お祝い行事やスケートパークの完成及び 参加者も若干加わり、 き恒例となった有志からの提供されたお を通して皆さんに観て頂きました。また ケートパークの施設の様子なども大画面 いた最近の村上市のPRのDVDやス 君の優勝なども紹介されました。会の途 上にゆかりのある雅子皇后の誕生による などを伺い、特に令和に入り地元では村 問から、最近の地元の様子や村高の様子 にも御出席頂きました。今年は、新しい 本部顧問、 しました。地元村上からは、 土産を中心に、 にて支部総会を二十五名の参加者で開催 二十五日出昨年同様京都の新阪急ホテル 早くも連日真夏日の続く中、五 市から副市長、 それをターゲットにし 忠副市長や尾崎顧 生涯学習課長 尾崎同窓会



村高校歌の斉 唱を行い来年 の先導による 後に山田さん た。そして最 て散会となり 大に行いまし た抽選会を盛 再会を誓っ

新 温

和男 (19回生)

関東支部事務局長をお迎えし、新潟駅南の「割 にて二十八名で開催されました。 烹爽海」(近藤正美(全二十一回) さんの新店舗) に関矢村上高校長、瀬賀新同窓会長及び櫻井 新潟支部総会は平成三十年十一月二十二日

に御報告、少子化の中で素晴らしく活発な教 彦校長が学校の近況をパワーポイントで詳細 山秀樹(全二十回)副支部長が進行、関矢和 手が起こりました。 育活動で先生方や生徒たちの成果に大きな拍 主催者の挨拶、御来賓挨拶、総会司会を横

次回の再会を誓いました。 まり、大盛会になりました。抽選を終え、紅一 点阿部望(全六十三回)さんの〆で会を閉じ、 少子高齢化が進展する中、私が卒業式及び 小柳佳三(全四回)先輩の乾杯で懇談が始

派な式典でした。 数の減少は感じられましたが、威風堂々の立 た。卒業生は五学級、新入生は四学級と生徒 とした雰囲気の中で式が粛々と挙行されまし 人学式にも列席させていただき、厳粛でキリッ

誘い合わせの上、大挙参集していただき、 潟支部総会に支部会員の皆様方から互いにお 数が最大ではないかと思います。令和元年新 計画されております。同窓会新潟支部の会員 校を盛り立てましょう。村上高校で時間と空 来年度は、母校の創立百二十年記念事業が 母

役員改選案等が承認され懇親会に移りました。

総会は山本会長ご挨拶に始まり、

会務報告や

ことを期待いたし りましょう。皆様 今後の人生を健 窓の絆を暖めて、 間を共有した同 方にお目にかかる やかで心豊かに送

会場未定に予定 十一月二十九日金 潟支部総会は、 しております 令和元年度新

瓠 醞

(16回生)

部

開催することができました。 懇親会が、四月十四日印豊谷殿に於いて 桜の満開のもとで定例支部総会・講演会・ ましたが、私共を待っていたかのように 総会時には葉桜になっていると思って 今年の桜の開花は、 早いと聞いてお V

挨拶、来賓挨拶に続いて議事に入り、原開催され物故会員に黙祷した後、支部長 の近況報告と堅忍不抜の精神をもって社来賓挨拶の中で、関矢校長から、本校 案どおり承認されました。 ご臨席をいただき総勢二十三名の参加で 賀弘行同窓会長、長谷川修一事務局長 来賓として本校より関矢和彦校長、 瀬 0)

会で活躍できる力を身につける教育をし ているとのこと。頑張れ村高!

中から選出された五十嵐松夫氏(16回生) 援を送りたい気持ちになりました。また、 年記念事業の思いが伝わり、皆で熱い声 賀氏から自己紹介と来年の創立百二十周 本部からは支部活動助成金を頂きました。 講演会は、昨年に引き続き支部幹事の 続いて、新しく同窓会長になられた瀬

鉢付きプレゼント併せて植付研修と参加しての卓話と参加者ひとり一人に雪割草 者に感動と満足 から「雪割草に魅せられて三十年」と題

り長谷川久子さ もの通り盛り上が れました。 感を味わわせてく を合唱して無事終 んのリードで校歌 懇親会は、 いつ



保史 (26 回生

ている学生のお話などをしていただきま 近況、大学に進んで全国レベルで活躍し 務局長には本部同窓会活動や現役生徒の 祝辞を述べていただきました。長谷川事 副会長は関川村の金融機関に支店長とし 迎えて終始賑やかに行われました。小田 から小田兼人副会長、長谷川事務局長を で開催しました。来賓として同窓会本部 主がOBである雲母温泉かくれ里清流荘 て勤務していた当時のお話を交えながら 川支部の総会を今年も三月三日に館

出話を肴に(もちろん清流荘のおいしい のも忘れてしまいました。 料理も)酒を酌み交わし、時間も過ぎる テーブル形式で行われ、皆さん昔の思い ん懐かしげに歌い上げました。懇親会は 会は恒例の校歌斉唱から始まり、皆さ

臨んだのですが、 支部では補助を増やし会費を安くして 参加者は昨年度に及び

たいと思っ 夫して行き 層企画を工 で、より一

た。来年は

もっと多く 席していた の会員に出

だきたいの

ませんでし

を約束する 加すること_ を誘って参 名の卒業生 員が各々一 回の出席会 盛り上がり、 次回は、今



仙

本間 弘信 25回生

期の復旧・復興を願っております。 皆様に、心よりお見舞い申し上げます。 |様に、心よりお見舞い申し上げます。早まずもって、この度の地震で被災された

を痛感します。 時は迷惑に感じましたが、東日本大震災を ピックの年(昭和三十九年)でした。当時 経験して、それが無駄な行為ではないこと デマ情報で飯岡の山まで裸足で避難し、当 西神納小学校四年の私は、大津波来襲との 思えば、前回の新潟地震は東京オリン

市鍛冶町で出生し、昭和三十六年三月に

長にお出でいただき開催いたしました。今 副会長を含めて六名のささやかな会となり 回は数名の常連の方々が欠席されたので、 懇親会)を十二月九日、本部から小田副会 さて、平成三十年度の仙台支部総会(兼

どをお話しいただきました。我々支部会員 活躍して欲しい。 たけど、後輩にはイヨボヤになって故郷で は、様々な事情からイヨボヤになれなかっ 高イヨボヤプラン」を推進していることな 小田副会長からご挨拶をいただき、「村

うです。

跡を知っていただければ幸いです。 とし、令和元年五月に完成いたしました。 君の追悼記念文集を同期生で作成する事 てあります。一人でも多くの人に彼の足 この文集は、村上市中央図書館に置い 素晴らしい功績を残した、故片野

現代の赤ひげ 片野 彰君を偲ぶ

村高第二十回生同期会



Щ 田 茂 (13回生) 也

彰君は昭和十七年十一月に村上

鍼・灸・漢方薬も学びました。 だしの医師」を知りました。患者の為に 院、新潟大学医学部附属病院、 村上高校を卒業しました。(13回生) 全生活を奉仕する姿に感銘して、 た。その間、中国で脚光を浴びていた「は 荘内病院などで内科医として勤務しまし 信州大学医学部を卒業後、 秋田中通病 鶴岡市立 中国の

実な人柄であり村民の信望が厚かった彼 逝しました。責任感が強く、献身的で誠 三十日(享年四十九歳)高血圧のため急 動しました。残念ながら、平成二年九月 な日々を送っていた村民には若くて優し のために忠類村では村民葬が行われたそ 施術するなど身を粉にして、 重病患者には一日何回でも昼夜を問わず い先生の着任は大きな喜びでした。彼は 診察を開始しました。無医村として不安 往診を行いました。又、無料の中国鍼を の切なる要望に応じ、平成二年一月から へ渡り、士幌町・音更町で勤務後忠類村 四十才を機に、昭和五十八年に北海道 九ヶ月間活

彰 等と思っている今日 まる企画』も良しか まりやすい場所に集 場所にこだわらず隼 との声も聞こえまし た。やるとすれば『最 先までは待てないよ_ との声や、「七年も から次は「喜寿か? 次会での参加者の声 参加者数:

古希の会」報告



藤

(20回生) 明

二十四・二十五年生まれを軸とする私達は古希 年村高に入学、一学年十二クラス同期生六百 珍しくもない、世にいう団塊の世代でした。 でしたが、当時県内には同規模校は沢山あり 名を超え、全校生徒千八百名超のマンモス校 七十歳を迎えました。東京オリンピックの翌 村上高校を卒業して早や五十一年、

生きできていることに感謝しています。 めて同期生各位に敬意を表すると共にお互い長 え活躍し、また苦労して来たことでしょう。改 ミからは勿論、各界・各分野で注目と期待に応 団塊世代ゆえに卒業後も色々な局面でマスコ

と思わせ「古希の会」と銘打ったこともあり 翌年一六〇名を迎えて行いました。二度目は特 した。そしてこの度三回目は、これが最後かな? に歳祝いを意識せず六四歳の時一二二名集まりま 一三二名もの多数を迎えることができました。二 同期会はこの度が三度目で、一度目は還暦の

一泣きながら 背中を洗う夢を見た~」

鶴橋

康夫(10回生)

を辞めようと思っ ●突然、テレビ局

突風や花吹き上げ

とは思えなかった。 ているような僕にドラマの神様が微笑む う天才ばかりで、 藤本義一、野坂昭如、 自転車遅着競争をやつ る花の中」、周りは 五木寛之さんとい

と書いて夜汽車に乗った。 明け方、坂町に着いた。 演出部のスケジュール表に、 「図書館

泳ぎをし、ピカソの描く゛裸婦゛さなが 感じの父は、両手足を祈るようにして川 僕を鷹巣温泉に連れていった。 誰もいない夜明けの大風呂に入った。 真綿の布団に針を一本隠し持っている よほど疲れた顔をしていたのか、 救急車を呼ぶようにタクシーを頼み、 両親

下腹部を裂帛の気迫で洗い始めた。ああ にひざまずき、僕の痩せた胸を、 皮剥けた。母さん交代!」。 の背中を擦り始めた。心底狼狽える。 そうか、端午の節句だったのか。 菖蒲で鉢巻きの母が、正面、 「よく出るなあ、お前の垢。 父が、「さてと…」と洗い場に座る僕 至近距離 腹を、

二人は、 何も言わず、 何も聞かない。



僕は、スタッフ・キャストの大フアン

79歳になった。

たいのだ。 というテレビジョンが、年ごとに愛おし 年である。潮時を見誤ってはいけない。 心なら、その闇の一つも解きほぐしてみ くなる。距離よりも〝遠い〟のが人間の なのに、語源が「遠くのものを見る」 「引き潮の脇腹蹴上げ白魚跳ぶ」の晩

が五夜連続で放送された。 地獄』 (佐藤浩市)、『警官の血』 の『白い巨塔』(岡田准一、松山ケンイチ 野真千子)などの長時間ドラマを撮った。 父の背中』(満島ひかる)、『坂道の家』(尾 介)、『悪女について』(沢尻エリカ)、『親 『ぶるうかなりあ』(宮沢りえ)、 『蚤とり侍』(阿部寛)の映画も撮った。 〔生田斗真〕、『後妻業の女』 (大竹しのぶ) この十五年で、『砦なき者』(役所広司)、 『愛の流刑地』(豊川悦司)、『源氏物語 この五月には、 御存知、山崎豊子さん 『天国と (江口洋

鉢巻き代わりにして大声で笑った。

らのたっぷりさで母は、湯に浮く菖蒲を

のない電話をする教授役の岡田さんと、 父さんの墓参りには必ず帰るわ」と当て 郷の母に「もうすぐ楽になるけん

ちの待つ仕 で、天才た 事場に戻っ の日の夜行 僕は、 そ スタッフも、まるで自分の親不孝を詫び ながら、僕は大声を上げて泣きたくなる。 授役の松山さんのクローズアップを撮り るように息をひそめている。 ひたぶるの母恋いを見つめる准教

洗う夢を見 がら背中を 「泣きな である。 の魅力そのものなのだから。 彼らの演技や技術の魅力は、 「視聴率そろりと動く暑さかな」。

『白い巨塔』は、それも、ぎりぎりセー

ただいた。 論の余地はない。少しお褒めの言葉もい 生である。本物の医師の感想だ。僕に反 フだった。 晃さんだった。 村高10回生・四組の同級 放送直後の最初の電話が、 医師の遠山

くれたのも晃さんだった。 ちゃえ貰っちゃえ」とお祝い会をやって 「宝くじに当たったようなものだよ。貰っ 若い頃、国からの受賞に当惑する僕に、

そんなお祭り騒ぎが数回続き、 在ちゃん、 征支、 直ちゃん、 鐵ちゃ そのつ

さん、 豊文、 さん、 ような作品 まり、"列 同級生が集 近辺在住 んたち村上 ん、美代さ トミさ 興平、 幸子 貞栄 清さ

> を習うことになっている。 言執行人を引き受け、 を作り続ける僕を励ましてくれた。 盟友中の盟友・丹田公之助は、 来週、 彼から詩吟 僕の遺

共に僕を導いてくれた長津一郎が逝っ 秀雄、工藤…、最近では、クラスは違う が講談社の名編集者になった鈴木富夫と 早逝した川崎、風間、八幡、 時田、

彼ら自身

ちら、にいった友も、僕の作品を見続け だ。さて、次の作品は…。 するしかなかった。これからもそうなの いう画面が消えてしまうような生き方を のスイッチを押した途端に、 り、生きることだった。ちょうどテレビ てくれた。それが僕のアリバイ証明であ そうなのだ。、こちら、にいる友も、、あ 一瞬で僕と

析る時人は独りや菜種梅雨

【プロフィール】

放送に入社。一貫してドラマの演出を手掛け、 2003年役員待遇で退社、現在はフリー。 1962年、中央大学法学部卒、読売テレビ 1940年1月15日村上市坂町生まれ。

(受賞歴)

で放送批評懇談会最優秀賞 術祭優秀賞。1993年、『雀色時』で文化 文部大臣新人賞。 厅芸術作品賞。2000年、 1982年、『かげろうの死』で芸術選奨 1988年、 『刑事たちの夏 『魔性』で芸

の秘密を描き、数々の社会派ドラマで新分野 と謳われ、カメレオンのように変容する家族 減さが混在する演出方法から映像の魔術 を開拓し続けている」 「叫びと沈黙、滑稽と悲惨、真面目といい 『仮の宿なるを』テレビ大賞 受賞理由 師加

部科学大臣賞。2007年、 2005年、『砦なき者』で芸術選奨文 紫綬褒章。



繋がった一因のようにも感じます。今や

学に合格しました。

私立大学については、

明治大学、

立教

学の10名をはじめとする25名が国公立大 は6・1%となりました。また、新潟大

126名、短大が16名で、大学等進学率

卒業生200名の進学先は、

●進学

進 路

情

報

村高には必要なアイテムの一つになって

もの)四台です。

が取れるテーブルと蛍光灯を備え付けた 固定式スタンド台(起立したままノート

内 高

の現況

路情報

計

103名

97名

200名

立正大学

(1)·帝京大学(2)

北里大学(1)・大正大学

 σ

他

8

1

東京理科大学(1)・工学院大学

3

村 高 の

現 況

教頭 鈴 木 正之

四月に村上高校に

お願い申し上げます。 申します。会員の皆様どうか、 着任した鈴木正之(すずきまさゆき)と 「モノ」は、教務室前に設置されている 着任した私の視界に最初に入ってきた よろしく

生の大学等進学率結果が七一%の結果に 述のスタンド台を使用できるものです。 置され、その場所が学習を補填する場所 教員が指導する場は着座する机と椅子等 の姿こそが村高の強みであり、今春卒業 複数の生徒が同時に解説を聞くことがで 疑問を直ちに先生方に問いかけることが このスタイルは生徒が頭の中に芽生えた 村高生の学習スタイルはこれに加え、前 となっていると認識していました。一方、 くの学校では、廊下等に、机と椅子が設 が常で、地域の進学校と言われている多 私の今までの経験では、生徒が質問し その場は質問道場に変容します。こ また一人の教員を囲むことにより

いるのです。

それを支援するよう、努めてまいります。 話的で深い学び、協働して課題に取り組 での英語によるプレゼンテーションな 習や海外修学旅行(昨年度は台湾を訪問) 習指導要領を先取りする形で地域探究学 ヨボヤプラン」を実施しています。新学 本校では、今年度も引き続き、地域に貢 を迎え、全校四七四名の村高生がそれぞ 生が同窓会に入会させていただきまし ご覧ください。 付けるための活動を推進して、教職員は の社会に必要とされる資質・能力を身に む姿勢、グローバルな視点等、これから ど、様々な活動をとおして、主体性、対 献できる人材の育成を目指し、「村高イ れ目標を持ち学校生活を送っています。 た。、四月には新たに一六五名の入学生 主な部活動結果は後述いたしますので 今年三月には、新たに二○○名の卒業

の難関大学を含め、226名が合格し、 大学、 106名が進学しました。 青山学院大学、 東京理科大学など

▼専門学校

51 名

新潟青陵大学短期大学部(9)

他

山形県立米沢短期大学(5)

<u>17</u>

大

10 68 0

10 38 16 31 1

> 106 16 47 2 9

男

女

計 20

◆短期大学

16 名 ◆

新潟医療福祉大学

(22 他

神奈川大学(2)・東海大学

実践女子大学(1)·鎌倉女子大学

3 $\widehat{1}$

大東文化大学 (8)•神田外語大学

川村学園女子大学(7)

大 学等合格状況

◆国公立大学 25名◆

新潟大学(10)・上越教育大学 室蘭工業大学(1)・弘前大学 1 1

横浜国立大学(1)・高知大学 $\widehat{1}$

新潟県立大学(4)

新潟県立看護大 (1)

青森県立保健大学(1) 首都大学東京(1)・長野大学(1)

諏訪東京理科大学(1)・名桜大学(1)

私立大学 226名◆

明治大学(1)・立教大学(1)

獨協大学 法政大学 (2)・文教大学(1) (2)·青山学院大学(2)

(3)・駒澤大学(1)

桜美林大学(1)・東京経済大学 専修大学(7)・亜細亜大学(1)

1

平成 31 年 3 月卒業生進路先】										
	私	短	専	就	浪					
\	بب	期	門		人。					
	1/		224		7					

学 大

> 校 職

16 1

> 関東学院大学 芝浦工業大学

(8)·千葉商科大学(2) (1):東京工科大学(3)

学 大

(<u>1</u> 玉 公

卒業生のうち2名が就職しました。

長岡赤十字看護専門学校(2) 新発田病院付属看護専門学校

します。 高等学校体育大会に出場した選手を紹介 年度全国高等学校総合体育大会、 県大会で優れた成績をおさめ、 令和

◎ソフトテニス女子 伊藤明日香・日野ルル 小田陽菜恵・安城郁江 組 組

単独演武 安藤 彰斗 ◎少林寺拳法男子

平成 30 年度 会費納入者名簿

会費納入者のお名前を掲載いたしました。 本会運営へのご理解ご協力に対する御礼に代えさせて頂きます。

※平成30年7月1日から 令和元年6月30日着金 分まで掲載。

宁 場 田 沢 林 村 治 田 村 辺 山 井 藤 池 津 木場野田田沢治田辺井藤池部東邉田橋藤川伽山山間藤藤藤滝柳司藤達山樫原田村谷藤 建昌昭有幸利勝 徹常俊歲光昭和源 久 市 正 純 牧 石 光 三良靖利 英敏和 司治信一男男也衛功節勤義章弥寬門濶治平夫信一也衛郎義章弥郎夫一夫郎雄宏生治雄雄治郎夫一保督雄英夫男博潤策雄信 高鈴須佐近近北青阿阿松新中寺田鈴鈴佐佐坂齋斎小小加貝小五家阿山村松本細田高澤佐佐佐小小倉川小伊石渡長木尾阿荒 村木部部本野村沢村木木野野部藤藤林池藤沼田嵐田部本上村間野村橋田藤藤藤堺出崎上田部栗辺川村坂部木 正 次正 洋徳岩 英籍富 五 和昌武丞格芳淑勝可清健清充奎悌 昌周鉄信睦久 泰光可良良三賢公廣 司平男忠悟郎潔男彦雄治夫夫実実人一児廣孝二三宏雄栄郎二正典三平男雄一清彦夫昭次夫男二司一孝等一次雄剛昭夫郎濶 飯荒相渡渡湯山山山森宗本本藤平樋東野新南遠津高高鈴菅佐佐佐佐小片加小大大井稲稲板飯青渡横八村美丸松本平樋中忠 藤藤藤藤松野藤田瀧倉上葉葉津沼木辺山後山濃山田間田口村 田木澤辺辺浅田田口山村間間田方口山沢野波山野橋鳴木 岩公直幸久康雄庄英良公一セ潤幸和朋徹正勝正俊 承 藤 國 富五八 安慎泰幸 明慶ミフク \$\delta 2 delta 2 delt 徳田棚高高高鈴佐佐佐坂坂齋齋近小木金笠内伊稲板石横水松本船樋野中中中外高鈴菅佐佐佐斎斎小小小加小大大上岩稲泉 橋村橋山橋澤木藤藤藤上上藤藤 林村子原山藤垣垣井山野田間山口中村村野門野木原藤藤藤藤松杉薬藤田平平野澤葉原 道田純洋正朝 順保美順安幸恵 東志郷順郁徳雄千右和素 イ敦誠文貞和三豊義俊 智 惠 悦 健 正 昌 富 路 鶴 次 恵 枝 男実美誠子子一子彦郎義子實夫寬次男子子蔵男造研二朗子子子弘次子一恕子功ク子二雄治衛夫成人雄浩稔子吾子一子市子 富和朋タ彊公和百ミユ 公工良健助英元弥 一千国れ美茂 泰納克 美守士博功弘正矩 ヲ節甚腎マ愛 井伊安阿渡吉吉山山山宫三本本福根中中富長田高島里佐佐佐佐小工伊稲伊市板安渡涌山八諸森宮丸丸前本本本星宝藤藤長 中橋田村藤藤藤藤杉藤部垣藤田垣斎辺井口後橋山坂山山田間間間野田野井川 上藤藤部部村田田崎口部浦間間井岸束島樫 千孝淑 捷剛六左久美代 二 栄栄準二 小 忠博誠正勝雅文 芳 雪 保 昭 恵 泰 克 伸 洋 忠 久昌耕秀昭龍 文郎子子孝子享子卓雄明治英治史男稔市子司蔵強子進男子子弘子則義夫子秀子雄子武平輔朗門子生馨彪雄隆治夫次男二作 片片押大大大小上市渡渡吉横山山山山村本本堀古船樋浜長野能布西長富富遠津田田高鈴鈴佐佐佐佐佐佐依木岸唐亀小大内 桐岡切矢平野野野島辺辺田山田田口口山間城田川山口田川邊見川山島樫樫山島中沢柴木木藤藤藤藤藤間藤村野津井田滝山 柾栄圀芳千恭恭在幸鐡克ジ直賢純 音 祥康典 弘敏 美 忠 建ア和睦册 利 節 貞 俊重鼠 由光貞英紘 建 ¹子子 夫 男 一 力 fb 造 子 三 屋 子 子 敬 子 夫 夫 ウ 成 司 子 操 子 興 子 夫 子 毅 二 子 昭 代 利 晃 勝 子 ヤ 雄 子 子 実 和 子 栄 清 明 良 平 洋 春 興 基 一 熙 小小小熊押小小大大薄伊青青渡山山村村水松松町本星古藤長二鍋鳥富土高高相菅菅菅下佐佐佐佐桜斎斎近近小菊川川加 山林林倉切木原島倉田部柳海辺崎口山田倉田澤田間野川田川瓶倉屋田屋橋橋馬原原原田野藤藤藤木井藤藤藤藤薬池村名藤 イ恭良和征純宏 共由正信義儀道是美 哲き 英久武秋宏幸久修 義壽久敏正幸 千分明邦 久 玲 治 子子彦勲子学子三博彦子真学麟子子彦彦一司明信朗学宏彦子子平司子子平清嗣子昭子子吾稔子道譲洋靖子子雄晃惠一雄子

佐佐小小児倉木木河加加勝風風岡岡內伊伊板石飯飯渡吉山山森丸本本船藤平平平平日原服長富坪田田高清清佐佐佐佐佐佐 藤藤菅杉嶋松村村内藤藤見間間本本山藤藤垣田沼島辺村脇田川山間間山崎山山田田野 部川樫山中中 水水藤藤藤藤藤木 克成久与 フ サ 信 信 邦 泰 晴 幸 文 智 裕 勇 美 喜 栄 良 昌 郁 英 忠 正 紘 寛一ト貞紀義洋一邦幹悦 幸良光 慶 政 一信 司夫子雄子男治美彦司郎進浩江枝子洋衛夫也子太強子志昂三夫隆子チ之子進彦治子枝子子二巳子一子之子子昭二次一修子 佐佐斎斎斎黒国木菊片笠笠小落小小上伊伊板渡渡麓山山山山森村三前前藤藤西中中中長津田谷高滝須須斎斎鈴陣佐佐佐 藤藤藤藤藤岩井村池野舛原野合田倉野藤藤垣辺辺辺田脇田田田山井浦田田川井山山村田川野村口橋沢貝貝藤藤木谷藤藤藤 久勝隆健 紘秋レ秀義綾孝好信曻三フ源 明広輝貫 和 シ茂重ミ比洋寛忠信忠ヒ昇正絢良 ミ 弘嘉倫テ純敏良 建妙 セ 世利男一攻子男子雄房子子昭子八年ミー敏治子男造繁子正子也行ヨ夫二郎男夫雄子一子子明強ヲ翼司子子ルー之造徹夫子 鈴鈴佐佐斎斉斎小小小木上小尾太大上岩井伊板五荒秋青渡米八山吉村村宮益本細藤早野成永中鳥鳥富土長丹田田田高高佐 木木藤藤藤藤藤林林林村村田崎垣川原谷上藤垣嵐井山山辺野後貝田山山本田間野田川口田井島山屋樫肥 田村中沢橋橋藤 高鈴鈴菅菅佐佐斎齋木川河蟹加加貝小小大伊井居石五阿阿阿明渡渡森森武明宮松松本本平林沼成永中中中藤寺田田田田高 橋木木原井藤藤藤藤村上内井藤藤沼辺田滝部上城川嵐部部部間辺辺田田藤前川山澤間間山 倉田井島静倉間井村村村中柴 正レ 長章博侠美雅文 宮テ弘登 朋康 徳 隆淑松義賢 万美雅冨キ克寿正勝 直邦孝信輝 文淑邦俊正賢昌 久敏正 イ 平子愈英人明子子子子裕子子子代敏子夫昇子実士子夫人一絢子子隆夫ト子一康彦正大朗雄雄美茂男子子文明二志隆七溥義 相鈴菅菅佐佐佐佐佐斎小小桑栗倉久日木川菊菊金勝小小大大植今今石石五五五阿阿青渡渡渡山森宮増本本平二奈中中忠瀧 馬木原原藤藤藤藤木藤池池原山崎美下戸島谷谷谷山田田島澤村谷井田川嵐嵐嵐部部塚辺辺部口井尾山間間山宮橋山村 工睦茂浩昌千節幸成憲信正俊 テ縫正忠也 き法清佐サ文裕尚由雅隆 彌 弘憲惠優美三 新弘行勝敏準保照茂国順杏裕 イ夫生平子子子一子夫義郎夫修子子平吉子敏子子信敏子雄子志子子一睦一満子三子子和男衛平司男子夫二男子樹男治子夫 小小奥岡大大大牛今稲伊板石五飯飯阿青渡吉山山山山山山森村村宮宮美南三松増本本本武別伴服長新奈富遠当田田田竹相 勝哲康セ睦幸千ゆ美た重千俊 ー 信伸美秀な宏 留千 栄久絢貞公禮順 降松千文里友芳ヨマ寿芳和 和庄貞弘襄 賀み弥 恵 恵 つ 代 美 代 津 リサ 栄與夫子ツ子男子子子み之子正久敏元子栄子子子平稔実美子誠輔子子二隆三子清吉明子子子茂朗子子栄次子建子一子美士 勝哲康セ睦幸千ゆ美た重千俊 一 信伸美秀な宏 横八山松益本本兵平平野野長中徳津田田只竹竹竹高高高高関瀬瀬鈴須小島澤佐佐坂斉斎齋近近小小児木川金加笠隠織小小 山後口永田間間動山山村田山山留野辺沢木内内内橋橋橋 根賀賀木貝路田田藤藤井藤藤藤藤 堀林玉村上田藤原寺田田田 三春彦夫彦子子为謙健夫造忍一字子子真子子子字字志夫次枝雄次字子勇夫一次夫つ一平枝夫猛旱吉子夫恙子子マ久子弥一 本本福早服長長丹長中鳥時遠田種田高鈴鈴菅菅菅佐佐佐児小小剣木菊金加小奥尾岡大大遠岩井磯磯五飯荒阿秋渡渡渡米横 間間田川部川川羽坂村屋田山村部澤橋木木原井井藤藤藤玉銭池持村池子藤野村木田沼塚藤本上部部嵐沼井部山辺辺邊山山 興一恒 啓正三富 幸拓初幸三繁 万実初小守美栄真富良甲和い陽治泰良由吉 厚 喜静 孝ゆ和ス愛芳陽幹まは芳 古彰光雄雄充子玄子子実治夫美子子實実夫雄雄子弘和三人子子朗子し子郎三作子枝勲子実子子衛一こ男子子行子雄子み彦 斎 近 倉 楠 木 菊 川 金 勝 片 柿 尾 小 尾 奥 小 岡 大 大 大 大 太 大 井 稲 市 伊 伊 板 板 池 五 荒 阿 阿 明 青 渡 渡 渡 渡 渡 横 横 湯 山 山 安 安 茂 村 美 水 増 崎田瀬谷崎子山桐沼上田崎野原田平沼沼滝田島上葉村藤藤垣垣田嵐木部部野山部辺辺辺邊木井浅本下富沢原山部野田 世一 一信澄 雅安 澄久紀 大修由康寿ふ静 さみ富 加竹千芳 芳ム成賢慶陽ヒ 四 陽方正秀俊高和範満満常津 津 美 み かな志 和 枝 ツ ロ ロ 子清薫市行子廣正利子豊枝子子茂三一子雄子子江栄え子子茂子子子子茂修子子策一一二子孝郎裕三直司明治志子雄春男雄 野難谷滝滝高高瀬鈴鈴清佐佐佐佐佐佐佐佐休休小木木川川上鎌片片小小小小岡梅内薄伊磯五飯荒阿渡渡渡若吉吉横山山山山野野山水小小岡梅内薄伊磯五飯荒阿渡渡渡若吉吉横山山山山山野 口波口波沢沢橋橋下木木水藤藤藤藤藤藤藤藤島村村上内村田野野寺田川原見田山井藤部嵐島木部部辺辺邊月田川山田田田貝 秀光順惠和由美英江 正正隆 幸 直耕裕英裕三幸 吉正真 み厚繁 真和孝 琴喜紀泰 幸午 恭 裕 光 京 房 大色伊伊板青渡森持美松本本本平中中中富遠遠長竹高鈴菅澁佐佐斉櫻近小小木川加小小奥大稲池飯渡山宮美本本細舩飛萩 淹部部藤垣野辺 田濃村間間間山山野島樫山山 内野木原谷藤藤藤井 林島村上藤野野村滝葉田沼辺際嶋濃間保野山田原 克潤英辰和倫和幸裕忠義 紀直彦正た喜 千た正英恵美義 裕裕大由 正盛眞正紀 雅芳久 健重ひ敏洋 美悦五由芳美 つ久 賞 智 見 美 代 ろ 栄 喜 津 巳子二巳伸子則江子三敦弘子也英美み雄求子つ晴治子子栄博子治治子隆子和悟巳美衛康雄夫孝二勝子和子清子也郎男子枝 奥大大大内渡吉松本本西西七中中遠田田高高高高高小上五阿和渡山美三細広平萩南寺長高佐佐佐佐櫻齋黒熊木加河小小小 村滝滝滝山邉澤村間間村村海村東山沼口橋橋橋野藤田田嵐部田辺田野国谷井山原雲井 橋藤藤藤藤井藤根倉村藤内野谷川 敦陽美松 宗由保重健與茂 祐文正富善則宏克洋文 澄美さ千一和トか和繁直睦正春和恵峯太正 子豊芳郎司聡子子子清治子子子次満子美男実志一樹昭子雄人広幸夫子明子子馨子子子子男平子え直雄樹美男夫夫子生郎二 石五五飯浅渡渡吉山矢三丸圓本林新長中富遠忠土田竹竹嶽田瀬鈴鈴菅菅菅須菅佐佐佐佐坂斎齋齋近近小小工木木川量小尾 田嵐 温 習 野 辺 辺 田 崎 部 浦 山 山 間 野 柄 田 樫 山 屋 中 内 内 岡 川 賀 木 木 原 原 原 貝 井 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 林 林 藤 村 村 山 田 崎 琢美謙哲欽久ユ常和み文弘秀明知勢康栄 敬や み久美敏与晋武修さ成由裕文和喜恵美勝昭三 恭 方 保 稲板板板石阿脇横八八水松本本藤平長長中塚田高高相鈴鈴鈴白佐佐佐佐坂斎斉近小河木北岸川加小小小小大上稲稲伊板石 葉垣垣垣栗部川山後後島澤間保木山川川倉田澤橋田馬木木木沢藤藤藤藤野藤藤 林面林村 村藤田田川川草野葉葉藤垣原 ゆ房岩 正政俊明伸恵睦文保 眞克由信明恒吉勝恵 忠山茂淳 祥紀と真 捷兼寿 晴玲宗妙保正羊 潔子彦男彦一司茂子子夫豊昭行三夫次子子也世透一彦子嘉子男春則子朗司治春子徹清子良し美栄寿人幸章美子元子史敏子 富丹田田鈴周佐佐桜坂小久楠北奥小大岩今稲居安青山山村村水松本本平羽中高高遠遠塚瀬鈴須東三佐佐齋齋大大大太梅臼 樫 村中木佐藤藤井井池苗田畑村川滝野泉家城達山村賀山田松本間間田田野橋橋山山野賀木貝群宮藤藤藤藤竹滝滝田原井 恵育重た優由春美則寿 智正百節昭明郁弘克久 文み賀泰節 可好美章潔 浩善久暁ま百富幸繁明法真 枝敏友康久ま 平広子美子子子子弘生子浩子明子子子子誠誠子美雄子子子美子行和昭則道子子一彦子行夫弥稔子り代輝子裕子範紀子人 阿阿阿山最村宮松本本舩長中中田田竹高鈴澤佐佐佐佐佐近近小木川川川小大井稲石安秋青米横山本堀深平東長畑中中中戸 部部部本上木野田間間山川村嶋辺中石橋木永藤藤藤藤 池村村村田原上葉井斎山山澤井本間田田田方川 山山島田 良恭紀 芳る 良富 良正邦 ひ敏勝 さ孝 裕 広広 礼宗泰 誠春庄俊一 貢子美代子子岳明徹清雄望志一覚和彦雄雄美子護浩子剛平夫彦斉み晴子尚み広充充裕司山肇幸三毅亨子子子徹子美司哉彦 相相清鈴鈴杉東島三佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐佐荷斎斎斎斎斎小小小日菅川川金金小尾大大大大内伊伊板石池五五五五安 林田條藤藤藤藤藤藤藤藤藤井間藤藤藤藤林林池下 村村子子田形滝滝島島池山東東垣栗田嵐嵐嵐嵐東 千洋成良葉美 博信直俊孝建明由敏 千 勝ひ敦静浩憲 幸元俊修清信康和謹達あ茂孝幾勇紀重恵朋

高高相鈴鈴澤佐斉近小川加加梅石五渡渡渡渡渡渡横山八保本本本本藤藤伴半長羽萩二成鍋中中中富津津丹田田田建竹高高 十 藤 谷 ノ 橋崎馬木木渡藤藤藤池内藤藤田黒嵐辺邉辺辺辺山田後田間間間間井井田田部沢原瀬田倉山村村樫島島田巻中中部内橋橋 佐木伊渡渡渡底原中遠田田高鈴佐工金小大内板石山山姫野高菅佐佐佐近近小小角大大井嵐横横横山森三三本成富津津田 藤村藤辺邉辺辺田田原山村村原木藤藤澤田滝山垣栗田田路澤野原藤藤木 杉池田場滝上 山田井口山宅国間田樫野島村 郁慎達律 公勝昭安富佳英智 智隆裕清 利哲信秀宗高 裕直浩正浩智弥幸和昭和千 健博素加公 良幸久美節智庄 初 美宗 惠一 雄二朗子昌雄也美子子子文子繁子一之美温宏也彦明春子敏子子市弥之恵生吉也善浩美昇一昭子子英隆浩男子子夫美郎忍男 佐酒金海大大青渡福平平平原南奈中富富高高鈴志桐木加小小大伊青前丹田高鈴菅澤佐佐佐佐權桑唐小大安阿吉森森高佐佐 藤井子沼滝滝木邉永山山田田波須島樫樫橋橋木田生瀬戸田熊滝藤木川田村橋木原田藤藤藤藤正原戸野西久部田 早恵和佳敏一繁 多 宏綾玄智美恵弘郁利 好和岳文高芳則 敏隆直新鶴郁耕小悦正 美 誠壮弘由隆む克裕 石中富佐國木太大伊阿渡本藤田佐佐斎栗木太秋谷羽富寺高郷工大磯森水水高高佐木小吉峰前布服長中千清加加海大青永中 田山樫藤井村田島藤部邉間田中藤藤藤山村田田治野樫澤橋内藤野部山倉倉野橋藤内野田田田施部濱村野水藤藤沼滝木田村 隆啓荘博か美清正賢政真哲 丈 佳 陽 繁貴み崇政実 力慎早賢 貴 幸 知研信 博英達謙政 渡津鈴小木渡山山藤富鈴佐佐佐五渡八武中鈴稲伊渡本寶富徳寶相加松竹佐佐小浮伊伊伊天渡涌吉平田谷高鈴鈴佐佐斎近江 邊島木室村辺田岸井樫木藤藤藤嵐辺後藤山木葉藤邉間保井泉井馬藤澤内藤藤田須部藤藤木邉井田間村川橋木木藤藤藤 長島木室村辺田岸井樫木藤藤藤嵐辺後藤山木葉藤邉間保井泉井馬藤澤内藤藤田須部藤藤木邉井田間村川橋木木藤藤藤藤見 忠陽憲正祐淳明良直和多美 さ禎 ひ秀仁和 恵典裕雅 直聡敏 健 保陽庸保清 一知老 海江渡山渡佐村矢佐伊渡圓高神飯矢高佐渡瀧佐色稲本平齋井阿村廣中田佐酒本平相鈴稲板津高菅佐佐小中斎市吉忠浅須渡 沼口湯賀湯藤山部藤藤湯山橋田沼部橋藤辺濹藤部葉間山藤元部山井村島藤井間山馬木葉垣野澤原藤藤田野藤村田 川貝部 康奈賢和菜丈甲泰孝昭秀太唯啓雄健佳秀美雅太津 優祐礼奨智美泰知裕圭賢陽貴 陽知明和去 正實和友正 孝貴唯和綾子代代之保卓子郎子悟弘智規佳太介雄介史梢一穂郎義美洋太幸好良幸一子介三児代和幸子隆崇隆子喜子友達也 関小板阿滝斎川板松平小菅貝細山樋成園横高和中富富伊細外富坂石鳥鈴伊川高遠寺伊菅島近板富富太山前佐板渡布信清渡 田垣部波藤上垣浦野田原岩谷貝口田辺山橋田田樫樫藤野山樫井栗田木藤村橋山沢藤原田 垣 樫 樫 田 賀 田 藤 垣 辺 施 田 水 辺 治順右マ省ト龍国 姫千恵は友克朝 実る 柳良悦文文律登一久 芳 健 鉊 **习政裕千** ト次 政信 春正誠力秋祐茂 裕貴友 子博子江子子次夫夫健明一門キー子一夫武之治作平子市三尋貫博シ郎博勝雄優雄夫一ウ男二夫樹香帆子が紀彦美樹也広香 東佐三鈴三斎阿太並仙渡小海宮長中渋小小中小田高西園富富横遠板矢菅鬼相小富鹿渡菅斎斎波菅小渡佐本増本佐長大近本会 藤 須 木 浦 藤 部 田 木 田 辺 田 沼 村 部 山 谷 池 田 山 池 村 橋 村 部 樫 樫 井 山 垣 部 原 原 馬 田 樫 野 邊 原 藤 藤 野 原 野 邉 木 間 子 間 藤 野 竹 藤 間 勇マ和 義み嘉久ふ 良紀貞イ芳マ健 道泰信利勝豊宗茂善光藤敏孝甚利與泰幸智 三治美正 良昭久穂昭 憲良か ツ か代 み 代 サ 大 惣 和 ー ー サ カイ子美徹栄子子枝子修雄子一シ子子二博男道夫英男男弘美弘弘生男栄郎一次蔵子也寿善幸子美博隆子郎子美司好ーーよ

> 平成30年度 新入会員 二〇〇名 新入会員 二〇〇名 **尚広報部会で校正、 チェックをいたしまし たが、掲載内容で間違 たが、掲載内容で間違

平成30年度村上高等学校同窓会決算書(見込み) (平成30年8月1日から令和1年7月31日)

収入	の部									(決算増△)
科		目	予 第	額	決	算	額	比	較	内 訳
会		費	4,90	0,000	4	1,850,	,000		50,000	入会金 2,000円×200名 入会金 2,000円×200名 会 費 2,000円×2,025名 (会費≒2,000円)
雑		入	10	2,212		10,	,087		92,125	5 利息等 名簿販売
寄	付	金	1	0,000		10,	,000		0	関東支部
前车	F度 繰	越金	7,75	7,788	7	,757,	,788		0	
	計		12,77	0,000	12	2,627.	875		142,125	5

		12,110,000	12,021,010	1 12,120	
支出の	部				(決算増△)
科	ŀ	本年度予算 額	決 算 額	比較増減	内訳
숲	議	200,000	146,000	54,000	総会·理事会·支部総会
事	務	1,050,000	933,101	116,899	
	人件多	400,000	347,850	52,150	支部総会等出張旅費・事務補助等(4ヶ月勤務)
	福利厚生物	10,000	0	10,000	
	消耗品數	50,000	39,503	10,497	コピー用紙等事務用品
	通信	200,000	169,873	30,127	インターネット代・郵送料・電話代・ハガキ代 ホームペーシ'サーバー使用料 ホームペーシ'更新管理料
	賃 借 #	170,000	168,831		コビー機カウント料 コビー機リース(10,500/月)
	会費徵収事務	費 220,000	207,044	12,956	郵便振替の手数料 支部会費徴収還元金等(新発田支部・関川支部)
事	業	2,700,000	2,739,959	△39,959	
	広 報 部	ß 2,500,000	2,513,959	△13,959	「同窓の訪れ 第68号」 H30年8月発行費用 ・印刷梱包費 20,300部 ・送料・ポスター300部
	行事部	ß 200,000	226,000	△26,000	村高芸術鑑賞会支援 100,000 総会・懇親会関係費(懇親会景品等)
助	成	590,000	445,000	145,000	
	生徒会活動補	为 290,000	265,000	25,000	全国·北信越大会等出場激励費 生徒会活動支援 200,000
	支部助成費	300,000	180,000	120,000	支部活動助成(関東・関西・関川・新発田)
積	立	≥ 300,000	300,000	0	記念事業積立金
雑	3	30,000	7,694	22,306	振込手数料他
予	備	₹ 7,900,000	129,038	7,770,962	高校案内パンフレット助成 30000 香典・見舞金
合	i	12,770,000	4,700,792	8,069,208	

収支 差	引 12,627,8	75-4,700,79:	=7,927,083
------	------------	--------------	------------

平成30年度まで積立金	2,860,916	
記念品(電子黒板)	△1,461,888	
平成30年度積立金	300,000	
利息	494	
合計	1,699,522	

郵便普通 信金普通 2.388.823 5,393,115 現金 42,396

令和1年度村上高等学校同窓会収支予算書 (令和1年8月1日から令和2年7月31日)

		_			(1-11-)			
収.	入の部	3						(減△)
科			目	本年度予算 額	前年度予算 額	比較増減	内	訳
숲			告	4,800,000	4,900,000	△ 100,000	会 費 2,000円×156名 入会金 2,000円×	156名(44名減)
云				4,800,000	4,900,000	△ 100,000	会費 2,000円×2,088名(会費≒2,000円/名)
雑			入	32,917	102,212	△69,295	利息等 名簿販売	
寄		付	金	10,000	10,000	()	
前	年度	[繰;	越 金	7,927,083	7,757,788	169,295	5	
		計		12,770,000	12,770,000	(
支	出の部	3						(減△)
科			目	本年度予算 額	前年度予算 額	比較増減	內	訳
숲		議	費	200,000	200,000	(総会・理事会・支部総会	
事		務	費	836,000	1,050,000	214,000)	
		、件	費	400,000	400,000	(支部総会等出張旅費・事務補助等(4ヶ月勤	协務)
	福	 「利厚	生費	15,000	10,000	△5,000)	
	ì	1 耗 1	品費	50,000	50,000	(コピー用紙等事務用品	
	iš	信信	費	200,000	200,000	(インターネット代・郵送料・電話代・ハガキ代	
	L						ホームペーシ'サーハ'ー使用料 ホームペ'ーシ'更新	
	ij	借	料	170,000	170,000	(コピー機カウント料 コピー機リース(10,500,	/月)
	숲	費徴収	事務費	1,000	220,000	219,000	「会費納入」送金料個人負担に変更 支部会費徴収還元金等(新発田支部・関川	支部)
事		業	費	2,900,000	2,700,000	△200,000)	
	Ü	、報	部	2,700,000	2,500,000	△200,000	「同窓の訪れ 第69号」 令和1年8月3 ・印刷梱包費 20,000部 印刷費の値 ・送料 佐川急便の値上げ ・ポスター:	生け
	ŕ	事	部	200,000	200,000	(村高芸術鑑賞会支援 100,000 総会・懇親会関係費(懇親会景品・当番幹:	事費用))
助		成	費	590,000	590,000	(
	生	徒会活	動補助	290,000	290,000	(全国·北信越大会等出場激励費 生徒会活動支援 200,000	
L	\Box	支部助	成費	300,000	300,000	(支部(関東・新潟・関西・新発田・関川・仙台	・群馬・中京)
積		立	金	300,000	300,000	(記念事業積立金	
雑			費	30,000	30,000	(振込手数料他	
予		備	費	7,914,000	7,900,000	14,000	高校パンフレット助成 30,000 他	

5 5 5 5 5 5 4 4 4 3 3 2 2 2 2

板山阿坦田部

鈴木

利夫

成田 渡辺

増えることを祈らずにはいられません。がありません。少しでも心穏やかな日々

編集委員

を願っている中、予想もしない自然災害や 事件事故が相次いで起こり、気の休まる時

後に様々な希望と期待を持ち、穏やかな日々

新しく令和という時代になり、誰もが今

れた皆様にお見舞いを申し上げます。

またこの度の山形新潟地震で被害にあ

わ

けてご協力をお願い致します。

全日制

併 46 46 46 45 45 44 44 44 43 43 43 42 42 41 41 40 40 39 29 旧中2 中2 本 延 佐 平 渡 構 渡 佐 加 田 長 平 佐 山 佐 山 松 横 高 飯 学

計 12,770,000 12,770,000

細鈴野木 伊與部洋一

加田 長谷川 平山 国 渡辺金治部 平佐山佐山松 出版本 間 栄新 高橋 隆 横渡佐山邉藤 佐藤 二人敏郎满勲蔵男 国 新由八八 安

分定校 時制 定昼8 定昼8 定 昼 1 定朝7 定定 山山 241 定 夜 22 定昼 9 全日制

26252119191818181715151514111111101010 9 9 8 8 6



圓山文堯・奥村直子・平山澄枝 小田兼人・矢部常男・佐藤さよ子

渡辺滋子

吉川 寛治

斎藤 弟 櫻井久美子

> 飯松齋佐近沼田藤藤田 富樫 清水 佐々木光男 鈴木伊次郎 良利美一智已未男

平吉寺山川澤 当摩 鈴 三 木 浦 渡辺 竹内 飯沼 本間 田 村 伊与部勝弘 高柳悠紀子 高橋美枝子 一 弘 美 紅 美 孝雄

*

午後一時~

会

県立村上高等学校体育館

祝賀会

場

瀬波温泉

汐美荘

◎同窓会費の送金料負担改定

改定後:会員の負担

改定前:同窓会事務局負担

後

りたくお願い申しあげます

便手数料の値上げに伴いご理解

施:本年度(令和元年)

から郵

記

皆様の努力に敬意を表し、改めて来年に これまで携わってこられた先輩方、会員 当同窓会は百二十周年を迎えます。 向の

事務局からの お知ら せ

|創立120周年記念事業(予定)

令和二年十月二十四日出

*午前十時~

式

演

物

故

会

員

名